

The SCSK logo is rendered in a bold, blue, sans-serif font. The letters are thick and closely spaced, with a slight shadow effect. The background of the slide features several overlapping, thin blue arcs that create a sense of motion and depth, framing the central text.

夢ある未来を、共に創る。

SCSKのOSSの取り組み

2016年2月27日

SCSK株式会社
R&Dセンター OSS戦略企画室
丹羽 幸雄

- ① 「SCSKのOSSへの取組み」概要
- ② RadarScope[®] の紹介、取組みの説明
- ③ OSSユーザーのための勉強会 <OSS X Users Meeting> の紹介

オープンソースソフトウェア（OSS）は、今やITの世界をリードし、また社会インフラを支えるIT基盤の不可欠な要素となっています。その一方で、企業システムへのOSS導入に際して、依然として情報不足、サポートへの不安といった懸念が先行しがちであるのも事実です。

SCSKでは、開発技術と利用技術との両面からOSSの振興・活用促進に努めています。次ページより、以下の中から主要な取り組みをご紹介します。

利用技術

OSS選抜のスクリーニング
「OSS Radar Scope[®]」

OSS採用のための
技術調査・検証・導入支援

OSS利用のシステム構築

商用版OSSの販売・サポート

開発技術

自社製品OSS版の提供・開発
(PrimeCloudController)

コミュニティへの貢献・活動

Linux Kernel

OpenFlow

OpenStack

軽量ruby

Xen, KVM,
QEMU

Zabbix

OSSユーザーのための勉強会
<OSS X Users Meeting>

技術調査レポート公開

<http://www.scsk.jp/product/oss/>

※ 一部抜粋

< OSS採用のための技術調査・検証・導入支援 >

最新OSSを採用するにあたり、必要不可欠となる技術調査・分析・検証から、最適なシステム構築の提案やOSS導入支援サービスを、VA Linux Systems Japanと共に提供しています。

サービス内容

- OSSの技術調査・分析・検証
- システムへのOSS導入提案
- OSS導入支援
- OSSの機能強化、チューニング提案
- OSS調査レポートの提供



< OSSを利用したシステム開発 >

OSSを利用したシステム、クラウド基盤の設計・開発、サーバの仮想化などの開発サービスを、VA Linux Systems Japanと共に提供しています。また、対象OSSに足りない機能の開発やOSS自体の開発を、OSSコミュニティへの積極的な働きかけと合わせて行なっていきます。

サービス内容

- OSS利用システム、クラウド基盤の開発
- サーバ仮想化、サーバ統合の導入支援
- 各種OSSの機能強化、チューニング、不足機能の開発

主要な商用版OSSの販売とサポートを行っています。また、これらのOSSを利用したコンサルティング、システム構築、構築システムの保守サービスも提供しています。

カテゴリー	取扱製品
OS／プラットフォーム	Red Hat Enterprise Linux (OS)
	Citrix CloudPlatform(クラウド基盤)
	Red Hat Storage(分散ファイルシステム)
	DRBD、Pacemaker(クラスタリングソフト)
	OpenLDAP(ディレクトリサービス)
ミドルウェア	Red Hat JBoss Web Server
	Red Hat JBoss Enterprise Application Platform
	Red Hat JBoss Operations Network
	Red Hat JBoss BRMS
	Red Hat JBoss BPM Suite
	Red Hat JBoss Data Grid
	Red Hat JBoss Data Virtualization
	Red Hat JBoss Fuse
	Red Hat JBoss Fuse Service Works
	Red Hat JBoss A-MQ
データベース管理システム	MySQL
	Couchbase Server
アプリケーション	Aras Innovator (PLMパッケージ)
	Liferay (ポータル)
	eZ Publish、OpenCms(コンテンツ管理)
コミュニケーション基盤	Zimbra Collaboration Server
	Dovecot
	Postfix

■OSS Radar Scope[®] とは

- OSSの客観的データを用いてSCSK独自の算出方法で評価し、結果を「レーダーチャート」と「ランキング」で表示したものです。

その評価方法もサイトに公開しています。

(公開先URL : <http://radar.oss.scsk.info/>)

■目的

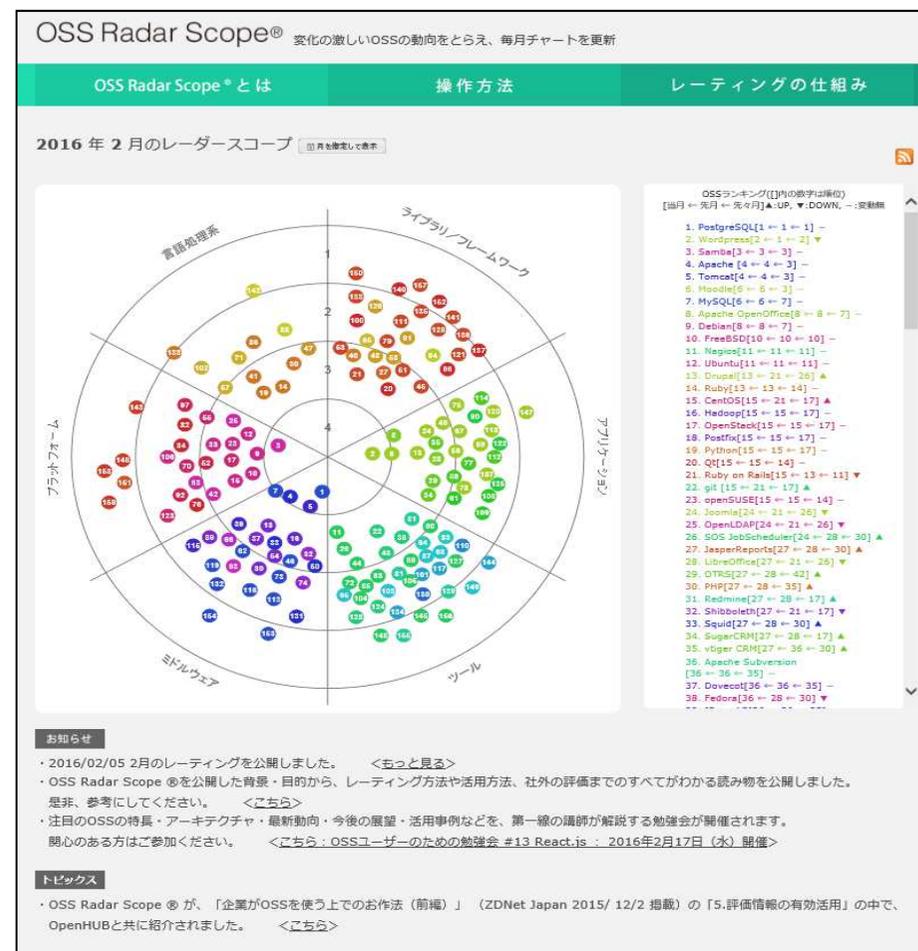
- ビジネスユースでのOSS選定をサポートすること。
そのため、常に最新情報を提供しています。

■開発に至った背景

- 弊社内の開発部門でOSSを選定して利用したが、
利用中にトラブルや障害が発生した。



当部門にトラブルの問合せが増加したため、
「物差しのようなツール」が必要ではないか？
と検討し、**Radar Scope[®]** を開発しました。



※詳細は弊社サイト「オープンソースソフトウェアへの取組み」もご参照ください。

(公開先URL : <http://www.scsk.jp/product/oss/>)

■ 全OSSの表示

- 以下の6分野(カテゴリ)から注目すべきOSSを選定しています(2016年2月時点で159本)

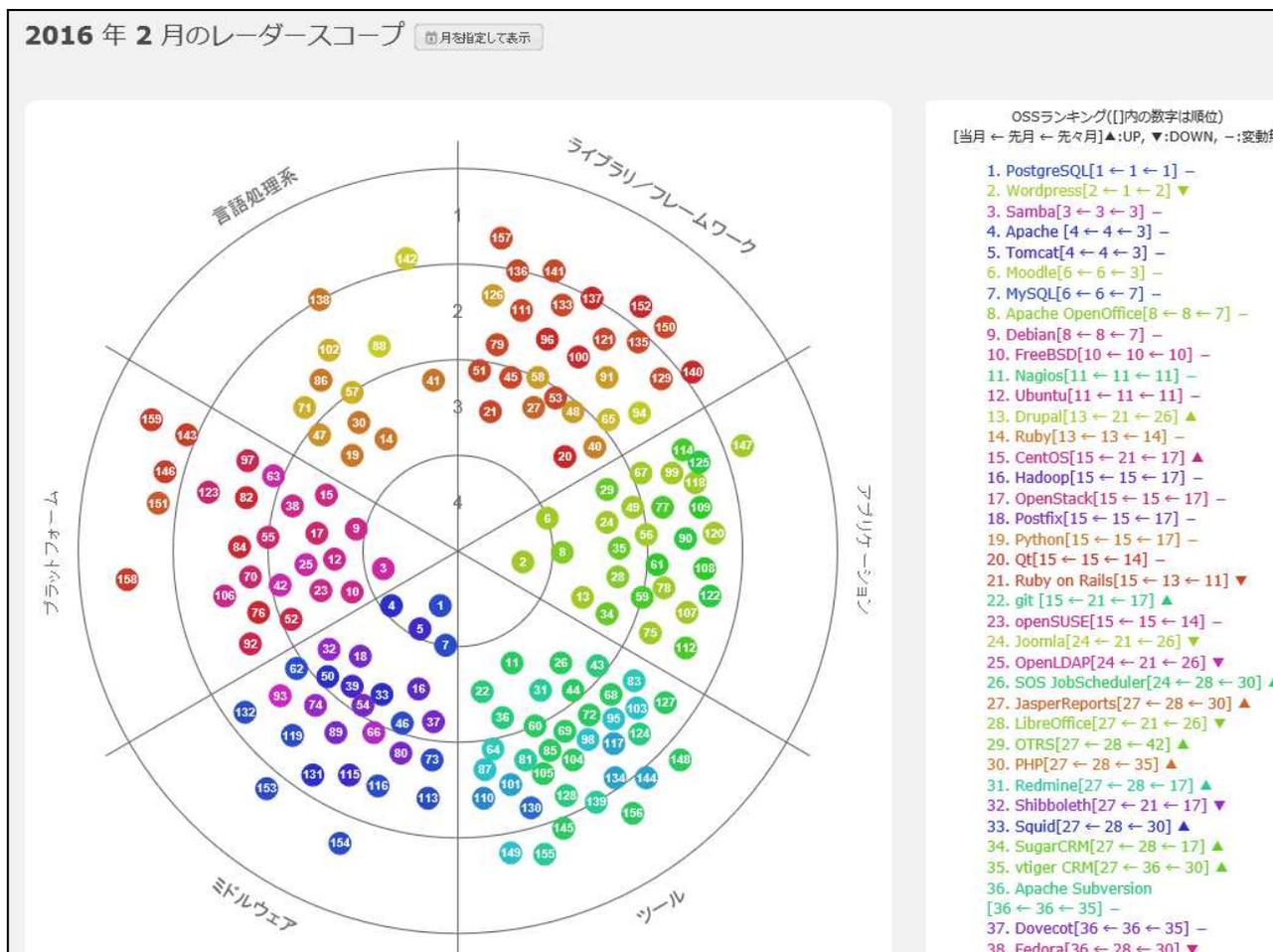
- ①プラットフォーム、②ライブラリ/フレームワーク、③ツール、
- ④ミドルウェア、⑤アプリケーション、⑥言語処理系

- 月次単位で評価し、最新の情報を提供しています。過去月の情報も確認できます。

- 左: 「レーダーチャート」形式
- 右: 「ランキング」形式

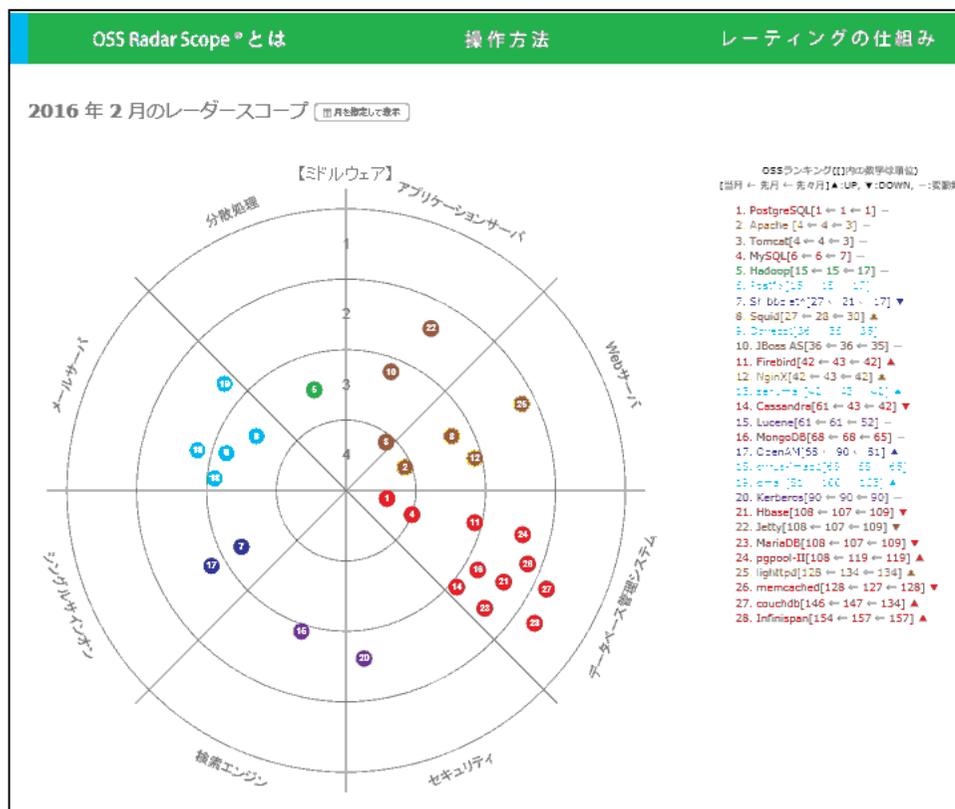
レーダーチャートは各OSSのスコアに応じた場所にマッピングしており、円の中心に近いほどランキング上位を示しています。

- カテゴリ欄をクリックすると、カテゴリごとのランキングを確認することができます。
※詳細は次ページ

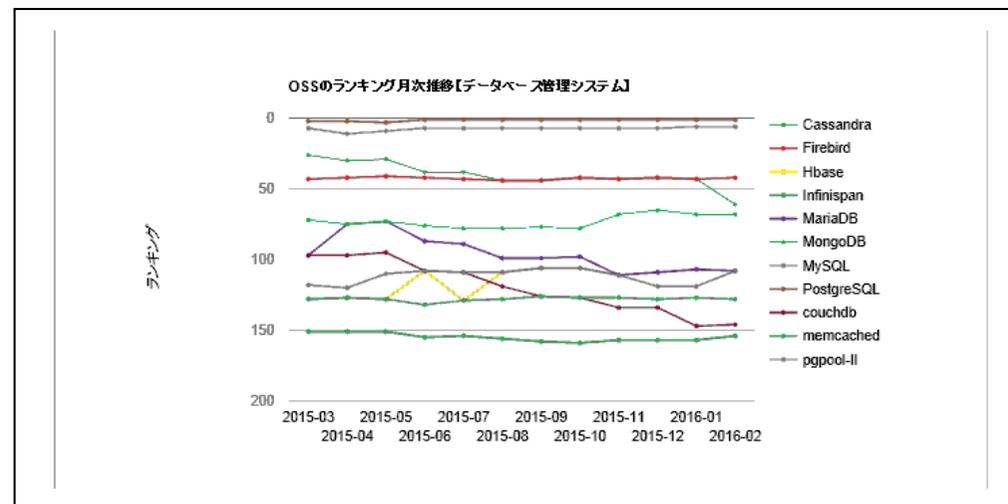


■カテゴリ別表示

- 各カテゴリを更にサブカテゴリ（ジャンル）毎に分類して、レーダーチャートに表示しています。同一用途のソフトウェアを一目で相対比較できます。



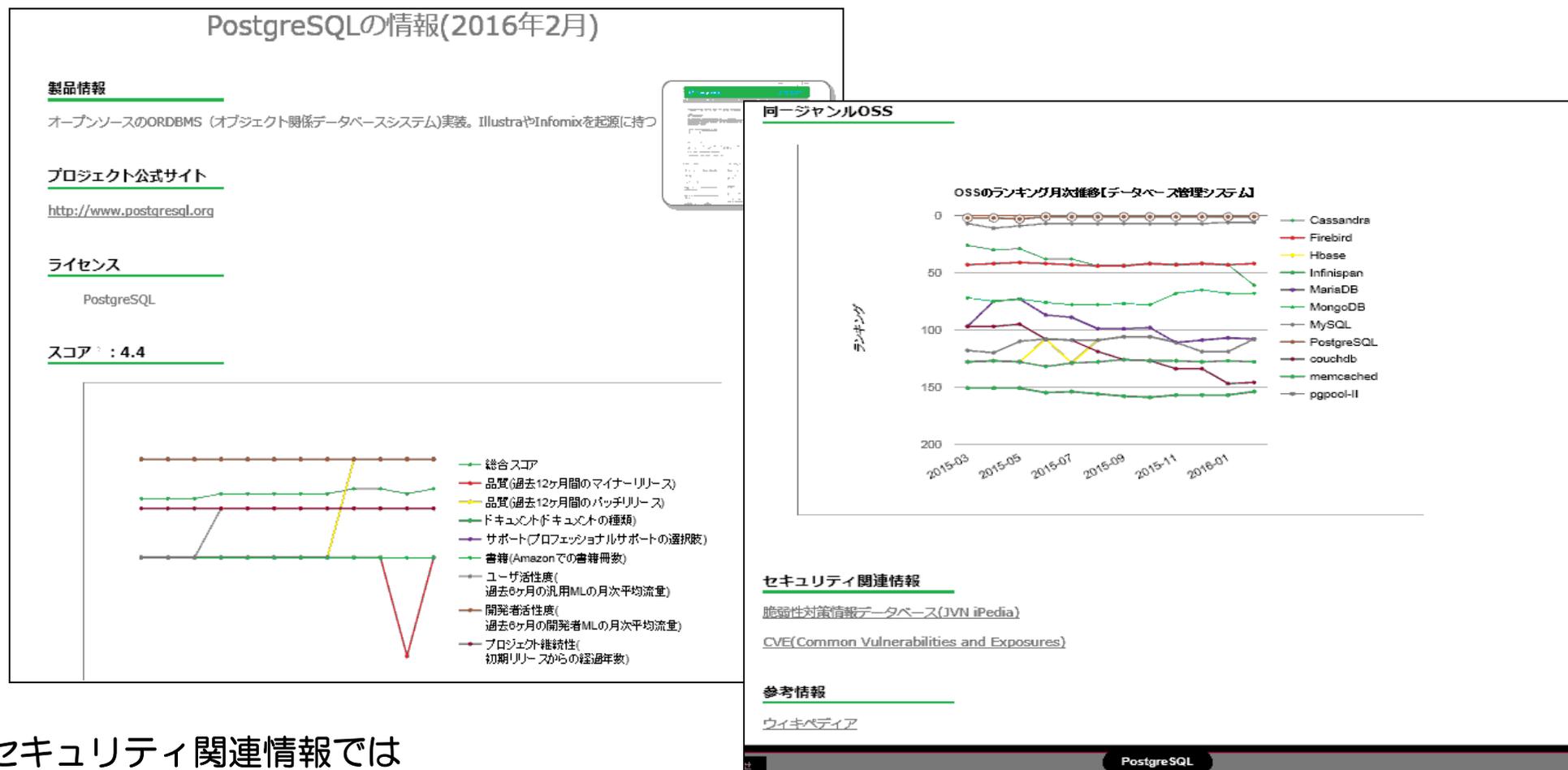
- ジャンル欄をクリックすると、ジャンル内のランキング月次推移を折れ線グラフで表示しており、月次の変遷も確認することができます。



- ランキングやレーダーチャート内のOSSをクリックすると詳細情報を確認することができます。詳細は次ページ

■ 詳細情報

- 詳細情報として、製品情報、プロジェクト公式サイト、OSSライセンス、スコア（特性毎のスコア）、セキュリティ情報（外部サイトリンク）、参考情報（ウィキペディアサイトリンク）を参照することができます。



- セキュリティ関連情報では JVN iPedia脆弱性対策情報データベース CVE (Common Vulnerabilities and Exposures) にリンクしており、詳細情報を収集できます。

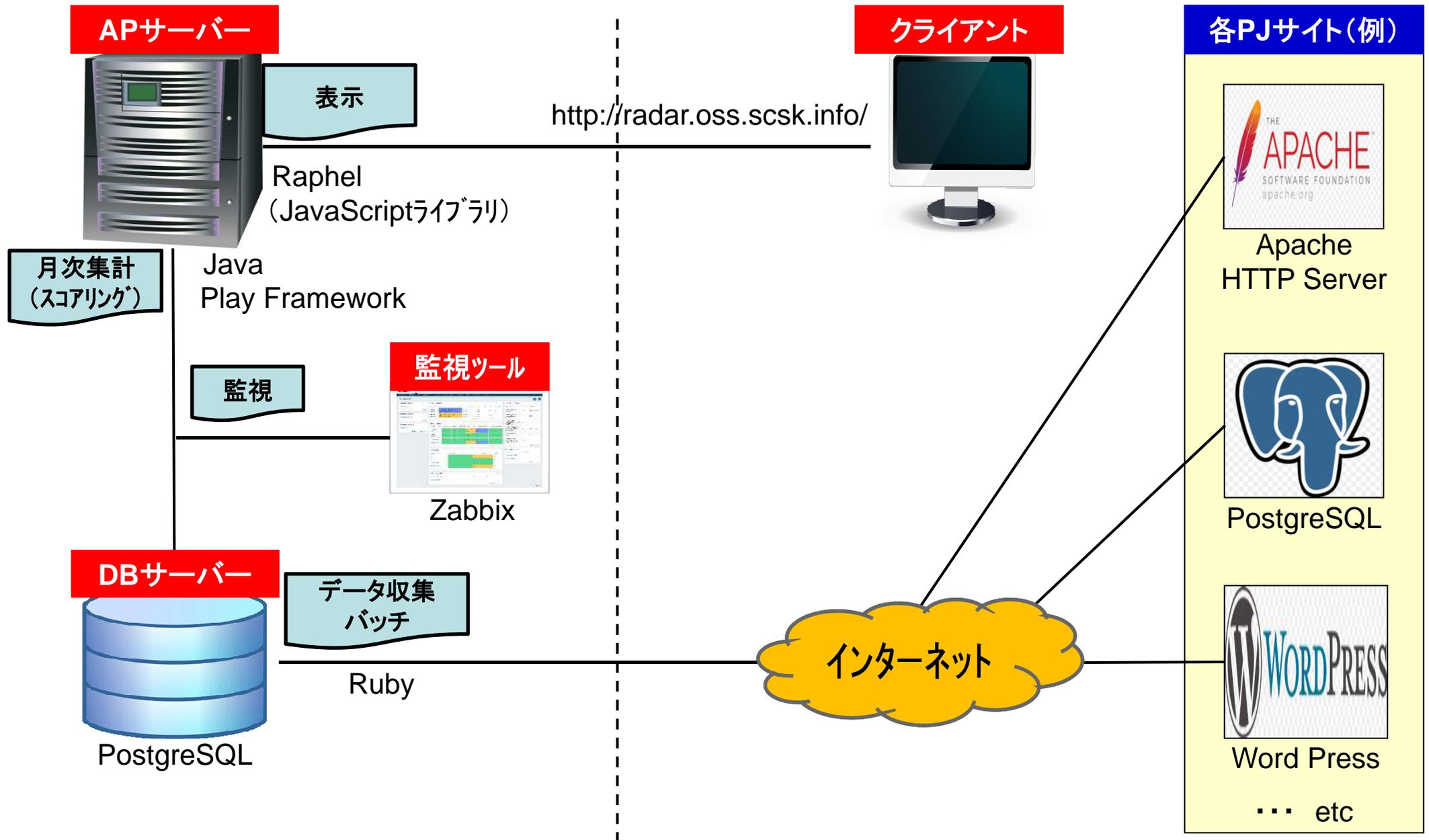
■評価方法と月次ランキング情報の収集

- 2012年12月から、OSSのデータを月次で収集し、評価しています。
- 評価基準として、5つの特性に対して独自の基準で重み付け、スコアリングしています。
- 5つの特性とは、「コミュニティ活動状況」、「リリース履歴」、「ドキュメント／関連出版物」、「サポート情報」、「プロジェクトの継続性」の情報です。
- 書籍以外はプロジェクト公式サイト、OSSベンダサイト等から情報を取得しています。OSS毎に取得元を調査し、現在は多くをバッチ処理で集計しています。OSS毎にバッチプログラムが必要であり、新規にOSSを追加した時など、プログラムが未作成の頃は手作業で集計していました。

<評価基準> ※ 2014年1月に過去1年の対象OSSの評価データを分析し、評価基準の見直しを行っています。

特性	重み付け	メトリクス	スコアリング				
			5	4	3	2	1
品質	0.05	過去12ヶ月間のマイナーリリース数	2		1または3		0または4以上
品質	0.05	過去12ヶ月間のpoint/patchリリース	12~24		3~11		0~2または25以上
ドキュメント	0.20	ドキュメントの種類	インストール／デプロイ、ユーザーガイド、管理者ガイド、最適化、アップグレード、開発者ドキュメントが、紙(PDF等)とオンライン媒体で利用可能	インストール／デプロイ、ユーザーガイド、管理者ガイド、最適化、アップグレード、開発者ドキュメントがWebで閲覧可能	インストール／デプロイ、ユーザーガイドが利用可能	テキストベースのインストールドキュメントのみ	ドキュメントなし(READMEはドキュメントのうちに入れない)
サポート	0.20	プロフェッショナルサポートの選択肢	複数の企業がサービス提供する		単一の企業がサービス提供する		なし
書籍	0.10	Amazonでの書籍冊数	20冊以上	10~19冊	5~9冊	1~4冊	—
ユーザー活性度	0.10	過去6ヶ月の汎用メーリングリストの月次平均トラフィック	1,000件/月以上	500~999件/月	200~499件/月	100~199件/月	99件/月以下
開発者活性度	0.10	過去6ヶ月の開発者メーリングリストの月次平均トラフィック	800件/月以上	500~799件/月	200~499件/月	100~199件/月	99件/月以下
プロジェクト継続性	0.20	初期リリースからの経過年数	20年以上	15年以上~20年未満	10年以上~15年未満	5年以上~10年未満	5年未満

■システム構成



■評価対象OSSの変遷

- 2012年12月に公開してから、4回評価対象のOSSを選定し直しています。
- 2013年3月にはカテゴリも見直し、「言語処理系」カテゴリを追加して、6種類の公開に変更しました。

【カテゴリ別評価対象数の変遷】

カテゴリ	2012年 12月	2013年 2月	2013年 3月	2013年 9月	2016年 1月
ミドルウェア	20	24	25	27	28
アプリケーション	16	21	21	29	29
プラットフォーム	17	22	22	25	26
ツール	27	31	31	36	36
言語処理系	1 ※注	1 ※注	12	12	12
ライブラリ/フレームワーク	21	28	28	28	28
合計	102	127	139	157	159

※注) 初期は未存在のカテゴリですが、カテゴリ新設時に変更

■外部からの評価

- 社内外の皆様に注目して頂き、毎月更新の度にたくさんの方からご利用頂いております。
※アクセスユーザー数（累積）：17,679人（2016年1月現在）
- OSS Radar Scope®をOSS選定時の情報入手先として、社内ガイドや講演資料、記事など様々なシチュエーションでご紹介頂いております。

例1) 株式会社 日立製作所 様

日立グループ内のSE向け教育用ガイド集に、OSSの採用判断を行うための情報入手先の一つとしてご参照頂いております。

例2) ZDNet Japan 2015/12/02 掲載

「企業がOSSを使う上でのお作法（前編）」の「5.評価情報の有効活用」において、OSS評価情報の公開サイトの一つとしてご紹介頂きました。

- 今後も機能、評価対象など魅力的な情報提供を継続していきます。
ご意見、ご感想等ございましたら、「radar-info@ml.scsk.jp」までご連絡下さい。

SCSKでは、NPO法人トップエスイー教育センター協賛、国立情報学研究所（NII）GRACEセンター協力の下、注目すべきOSSをテーマに、開発コミュニティの当事者とこれからOSSを学びたい人々の交流を通して、共に見解を高めるための勉強会シリーズ「OSSユーザーのための勉強会 <OSS X Users Meeting>」を開催しております。

- テーマとなるOSS開発コミュニティの第一人者や主要メンバーによる講演が行なわれます。
- 講演資料は、弊社ホームページの「オープンソースへの取り組み」に公開しています。
(<https://www.scsk.jp/product/oss/report2.html>)



	年月	テーマ	講演タイトル	講演者
1	2012年10月	クラウド・インフラ構築ソフトウェア「OpenStack」	OpenStackの概要、アーキテクチャ、開発コミュニティ、今後の展望	SCSK(株) OSS基盤技術センター/VA Linux Systems Japan 岩本 俊弘
			ユーザーから見たOpenStack - 活用の勘所、課題、期待	NIIアーキテクチャ科学研究系 特任教授 横山 重俊 様
2	2013年1月	統合監視ソフトウェア「Zabbix」	Zabbixの入門・最新動向とZabbix本社の開発・サポートから見る日本のIT	ZABBIX-JP代表/Zabbix Japan 合同会社代表 寺島 広大 様
			Zabbixのユースケース ~ システムインテグレーションの現場から ~	ZABBIX-JP /SCSK(株) OSS基盤技術センター 田中 敦
3	2013年5月	ネットワーク制御技術「OpenFlow」	OpenFlowで広がるSoftware Defined Networkの可能性	(株)IIJイノベーションインスティテュート 代表取締役社長 浅羽 登志也 様
			OpenFlowプログラミングフレームワーク Trema	日本電気(株) クラウドシステム研究所 主任研究員 須堯 一志 様
4	2013年8月	組み込み開発向けの軽量版Ruby「mruby」	mruby紹介「組み込みで使える軽量Ruby『mruby』」 福岡CSKのmruby活用事例 NPO法人軽量Rubyフォーラムのご紹介	(株)福岡CSK 軽量Rubyエバンジェリスト 三牧 弘司
			IIJによるmruby事例紹介	(株)インターネットイニシアティブ プロダクト本部 戦略的開発部 曾我部 崇 様
5	2013年12月	「OpenStack」の最新動向と導入事例	「OpenStack Networking (Neutron) 解説」	SCSK株 OSS基盤技術センター / VA Linux Systems Japan 小田 逸郎
			「Openstack 事例紹介」	ヤフー(株) システム統括本部 基盤システム開発本部 伊藤 拓矢 様

	年月	テーマ	講演タイトル	講演者
6	2014年4月	OSS RDBMS「PostgreSQL と MySQL」	「MySQLの優位性」	SCSK株 基盤インテグレーション事業本部 基盤インテグレーション第一部 池田 徹郎
			「PostgreSQLの優位性」	(株)アシスト データベース技術本部 技術開発部 喜田 紘介 様
7	2014年7月	CloudConductor と PrimeCloud Controller	「CloudConductor の特長と最新動向」	TIS株式会社 コーポレート本部 戦略技術センター 主査 松井 暢之 様
			「PrimeCloud Controller の特長と最新動向」	SCSK株式会社 基盤インテグレーション事業本部 クラウドインテグレーション部 クラウド企画課 課長 瀧澤 与一
8	2014年12月	Drupal と Plone	「 Plone features and trends 」	株式会社ビープライド Python climber / PyCon JP 2014 座長 鈴木 たかのり 様
			「 What is Drupal ? 」	ANNAI LLC 代表・CTO 紀野 恵 様
9	2015年6月	Docker	「 いまさら聞けないDockerのすべて ～ 基礎から最新動向まで ～ 」	レッドハット株式会社 ストレージソリューションアーキテクト / クラウドエバンジェリスト 岩尾 はるか 様
			「 Docker の利用事例紹介 ～ 商用サービスの基盤として利用 ～ 」	株式会社インターネットイニシアティブ シニアエンジニア 前橋 孝広 様
10	2015年7月	ownCloud	「 ownCloud の特長と最新動向 」	株式会社ビーグッド・テクノロジー ITサービス統括部 リーダー 高橋 裕樹 様
			「 活用事例紹介 : OpenAM (ThemisStruct-WAM)と連携し、SSOを実現 」	株式会社オージス総研 技術チーム 千野 修平 様
11	2015年9月	OSSを利用した開発のプロジェクト	「 これからのシステム開発とOSS 」	SCSK(株) R&Dセンター 技術開発部 技術戦略課 課長 岩本 健
			「 事例1: オリンパスグループにおけるOSSライセンスコンプライアンスの実際 」	オリンパスソフトウェアテクノロジー(株) 技術本部 先進技術開発部 認識解析グループ 兼 ソフトウェア戦略室 博士(理学) 小泉 悟様
			「 事例2: 1万人規模利用を想定した情報基盤構築 」	SCSK(株) 流通システム第一事業本部 サービスシステム部 WEBSAS課 石川 裕喜

No	年月	テーマ	講演タイトル	講演者
12	2015年11月	Cloud FoundryとSpring	「Cloud Foundry ことはじめ」	日本Cloud Foundryグループ監事 たかよし なおと 様
			「現在、過去、未来 Springを理解しよう」	合同会社 Starlight&Storm 日本Springユーザ会 会長 長谷川 裕一 様
			ライトニング・トーク ①「こんなにあります、OSS PaaS基盤」 ②「業務システムとマイクロサービス」	日本OSS推進フォーラム 原 嘉彦 様 日本Springユーザ会 土岐 孝平 様
13	2016年2月	React.js	「React.js の特長と最新動向」	株式会社レタ CTO 最高技術責任者 開発部 増井 雄一郎 様
			「ユーザーから見たReact.js活用のポイント、課題、期待」	Fringe8株式会社 技術開発本部 コアテクノロジスペシャリスト 関 陽介 様
			ライトニング・トーク	

- 第13回勉強会を2/17（水）に実施しました。
Reactを利用したことがある方から、Angularなど異なるJavaScriptのみ利用したことがある方、情報収集や業務外で利用されている方など、様々な方にご参加頂きました。

本編の講演並びに、お食事しながらのLTでも活発なご意見、質疑応答により盛況に終わりました。

- 【**次回のご案内**】
第14回勉強会を**4月に開催予定（詳細未決定）**です。テーマ「**HadoopとSpark**」で準備中です。

興味のある方は奮ってご参加ください。

開催のご案内を希望される方は「oss-seminar@ml.scsk.jp」までご連絡下さい。